

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	2 年
講義日	令和 8 年 10 月 15 日(木)		
テーマ	脱炭素社会「再生可能エネルギーと地域社会」		
講 師	豊田陽介(コー・イノベーション大学 教授)		
講義内容			
「なぜ今、脱炭素社会への転換が急務なのか？」 2024 年の世界平均気温が産業革命前から 1.5℃を超えたことに象徴されるように、気候変動はすでに現実の危機として私たちの前に立ちはだかっている。本講では、気候科学の最新知見をもとに、1.5℃目標を達成するために世界と日本に求められる削減経路を概観する。その上で、「日本のエネルギー政策はその要請に込えているか？」という問いを軸に、第 7 次エネルギー基本計画を批判的に検討する。非現実的な原子力目標、石炭火力の温存、CCS 等の不確実な技術への過剰依存、低すぎる再エネ目標という 4 つの問題点を、日本の排出実態や国際比較のデータとともに読み解いていく。 「再生可能エネルギーは地域を破壊するのか、それとも豊かにするのか？」 再エネに対する誤解や根強い懸念(コスト、環境影響、人権リスクなど)を実データをもとに整理し、コストが急激に低下する再エネが既存電源を下回りつつある現実を示す。再エネ導入のあり方について「誰が、どのように再エネを普及させるのか？」という問いのもと、RE100・RE Action に見る企業・団体の動向、出力抑制やトラブルといった制度的課題を踏まえながら、市民・地域共同発電所、地域新電力(たんたんエナジー、TERA Energy)、ソーラーシェアリングなど地域密着型の実践事例を紹介する。エネルギーの地産地消が地域経済循環や雇用創出につながる可能性を考え、市民一人ひとりにできるアクションを展望する。			
講師からのメッセージ			
当日は画像やデータをもとに、視覚的にも分かりやすい授業を行う予定です。難しそうに聞こえる「脱炭素」というテーマも、データや具体的な事例を通じてひもといていくと、身近な問題として見えてきます。講義を通じて、脱炭素を「制約」ではなく「地域の未来をつくる機会」として捉え直す視点を持っていただければ嬉しいです。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	2 年
講義日	令和 8 年 9 月 24 日(木)		
テーマ	里山林・生物多様性・六甲山		
講 師	兵庫県立大学名誉教授 服部 保		
講義内容			
私たちヒトは自然と共に生きています。もっとも身近な自然である里山を取り上げ、里山はどのようにして形成されたのか、里山はどのような役割を果たしてきたのか、これからの里山をどうするべきかなどを考えてみます。 次にいつも話題に上がる生物多様性を調べてみましょう。たくさんの生物、それも身近な生物が絶滅の危機にあることが分かります。 最後に六甲山です。六甲山は都市に隣接した山地として、日本で最大の都市山(としやま)といえるものです。都市山六甲山は山麓の人々にとって、たいへん重要な身近な自然であり、たくさんの恵みを与えてくれていますが、温暖化、植生遷移、大雨などたくさんの問題を抱えています。 これらの問題について、お話します。			
講師からのメッセージ			
シルバーカレッジに隣接して里山が残されています。里山に入って植物に触れてみましょう。ヤブカには気をつけて。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	2年
講義日	令和 8 年 7 月 9 日(木)		
テーマ	激甚化する自然災害と防災・減災		
講 師	髯 本 格 (かがく教育研究所・元神戸親和女子大学教授)		
講義内容			
1 時間目 六甲山地周辺の地質・地形と気象災害・土砂災害			
・最近数年間の日本列島での自然災害(気象災害、土砂災害)を振り返ります。			
・六甲山地周辺(阪神間・神戸)での過去の水害(昭和 13 年、昭和 42 年など)とその後の対策について考えます。			
・六甲山地周辺の地形・地質をふまえて、今後起こる可能性のある土砂災害と対策・防災について考えます。			
2 時間目 兵庫県南部地震と六甲変動、南海トラフ地震への備え			
・兵庫県南部地震とは何だったのか？ なぜ、阪神・淡路大震災になったのかを考えます。			
・六甲変動の一コマとしての兵庫県南部地震について考察します。			
・なぜ、地震が起こるのか？ 地震の活動期に入った日本列島について考えます。			
・東日本大震災とその教訓について考えます。			
・必ず起こると予想される南海トラフ巨大地震と防災対策について考えます。			
講師からのメッセージ			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	2 年
講義日	令和 8 年 5 月 7 日（木）		
テーマ	「自然共生 守りたい神戸の自然と生きものたち」		
講 師	兵庫・水辺ネットワーク、里地・里山の保全推進協議会 大嶋 範行		
講義内容			
神戸市は、人口 150 万人の大都市ですが、波穏やかな瀬戸内海に面し、明るく開けた市街地の背後には、標高 932m の六甲山が聳え、街中からもその緑豊かな山並みを眺めることができます。また、三宮から北にトンネルを抜けると、そこには豊かな田園地帯が広がります。このように、神戸市内には多種多様な自然環境が存在します。 この神戸市には約 8,000 種の動植物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、昆虫類、淡水・汽水産甲殻類、陸産・水棲貝類及び維管束植物）が暮らしています。これは 150 万人が住む大都市としては、非常に高い数値となっており、それは海あり山ありの多種多様な自然環境に恵まれた神戸ならではの特徴と言えます。 しかし、この 8,000 種のうちの実に 12% にあたる 932 種は絶滅が危惧される生きものとして、「神戸版レッドデータ 2020」には記載されています。 この講義では、これらの自然環境を具体的に紹介し、併せてそこに暮らす多種多様な生きものたちについても解説します。しかし、近年ではこの豊かな生態系にも異変が起きています。これは、神戸に限ったことではありませんが、かつては普通に見られた生きものまでが、私たちのまわりから姿を消しつつあります。その原因としては、私たち人間による環境の改変、地球温暖化、化学物質による生態系破壊などが考えられます。 ここでは、絶滅危惧種の約半数が暮らすとされている里地・里山にスポットを当てて、特に多種多様な生きものが見られる里地（農村地域）を中心に、今どんな問題が起こっているのかを、具体的に解説します。また、そこで行われている保全活動についても、詳しく紹介します。 最後に、外来種問題についても解説します。外国から持ち込まれた動植物が、日本の生態系に甚大な影響（被害）を与えており、その現状と駆除活動の実態についても、紹介します。			
講師からのメッセージ			
私たちのまわりから、いろいろな生きものが姿を消しつつあります。これは、自然からの恵みを受けて暮らしている私たちにとっても、きわめて深刻な問題と言わざるを得ません。私たちが豊かな暮らしを続けるためにも、生物多様性の保全が重要な課題となっています。			